

衆議院と参議院の権能に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 内閣総理大臣の指名は、衆議院のみが持つ権能であり、指名には衆議院における過半数の賛成が必要である。
2. 内閣不信任決議は衆参両院が行うことができ、衆参両院でともに可決された場合、内閣は衆参両院を解散するか、総辞職することとなっている。
3. 衆議院で可決された法律案が参議院で否決された場合、その法律案は、衆議院で出席議員の3分の2以上の多数で再び可決したときは、法律となる。
4. 国の予算は、まず参議院で審議され可決された後、衆議院で審議がされ可決されると成立する。
5. 憲法改正の発議は、衆議院と参議院それぞれの総議員の過半数の賛成で、国会が行う。

正答. 3

窒素に関する次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

ア. 窒素の単体は常温では化学的に安定である。

イ. 窒素の単体は乾燥空気中に酸素に次いで多く含まれる。

ウ. 窒素はグルコース（ブドウ糖）やデンプンの主要な構成元素である。

エ. 液体窒素は冷却剤として用いられる。

オ. 窒素を酸素と反応させるとアンモニアが生じる。

1. ア, エ

2. ア, オ

3. イ, ウ

4. イ, エ

5. ウ, オ

正答. 1